

# 授業科目 身体障害作業療法学演習Ⅰ

【担当教員名】  鈴木 誠		対象学年	3	対象学科	作業
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○	○	○	
【概要・一般目標：GI0】 脳血管障害や頭部外傷等の脳損傷および脊髄損傷に対して作業療法を実施するために、その病態を理解した上で、作業療法の目的、治療理論やその実際の方法を学習し、さらに演習によって技術を身につける。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1 作業療法の対象となる人や障害に関心を持つことができる。 2 一般的な礼節を身につける。 3 脳損傷と脊髄損傷に対する作業療法の目標を説明することができる。 4 脳損傷と脊髄損傷に対する作業療法を説明することができる。 5 検査結果から治療あるいは援助するための目標と治療内容を考えることができる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	脳損傷および脊髄損傷に対する作業療法総論			1～5	講義・演習
2	脳損傷患者の運動障害に対する介入			1～5	講義・演習
3	脳損傷患者の歩行障害に対する介入			1～5	講義・演習
4	脳損傷患者の上肢機能障害に対する介入			1～5	講義・演習
5	脳損傷患者の痙縮に対する介入			1～5	講義・演習
6	脳損傷患者の利き手交換に対する介入			1～5	講義・演習
7	介入目標の立案（評価結果を基に目標を立案）			1～5	講義・演習
8	介入計画の立案（介入内容の選択と効果判定）			1～5	講義・演習
9	疾患別介入（目標の立案から介入までの実践）			1～5	講義・演習
10	疾患別介入（目標の立案から介入までの実践）			1～5	講義・演習
11	脊髄損傷の病態、評価、介入（合併症管理）			1～5	講義・演習
12	脊髄損傷の病態、評価、介入（動作訓練）			1～5	講義・演習
13	脊髄損傷の病態、評価、介入（車いす、装具、自助具）			1～5	講義・演習
14	脊髄損傷の病態、評価、介入（社会復帰）			1～5	講義・演習
15	まとめ			1～5	講義・演習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		身体機能作業療法学 第2版	岩崎テル子編	医学書院	2011・4,935円
		リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ	山崎裕司編、山本淳一編	三輪書店	2008・3,570円
その他の資料					
【評価方法】 定期試験		【履修上の留意点】 Tシャツ・短パンの上にジャージ等を着用して授業に参加すること。			